

空也(市聖) 僧。日本独自の仏教である念仏の祖で、その伝承は一遍をはじめ民間布教僧に大きな影響を与えた。

くうや

道真没・・・ 903 = 生。空也は、すでに生存中から皇室の出であるという説があったが、みずからは父母のことをいわず、郷土を語らなかつたという。

・・・・・・ 912 = 9歳 :

・・・・・・ 921 = 18歳 :

少壮のころ、在俗の仏教行者として五畿七道を遍歴し、名山霊窟で修行するかたわら、道路の険しい所は岩石を削って平坦にし、水を必要とする所には井戸を掘り、荒野を行って死骸を見れば油を灌いで火葬するなど、行基のような社会事業を行い、阿弥陀仏の名を唱えた。

20余歳で、尾張の国分寺で出家し、空也と名のり、さらに修行を続けたが、播磨の峯合寺(峰相寺)で一切経を学んだときには、難解な所に出会えば夢に金人が現れて教えてくれ、四国の湯島で修行したときには、7日間腕の上で焼香すると、観音の尊像が光を放ったといい、自ら刻んだといわれる2尺余りの十一面観音像が伝わる。

忠平摂政復活 930 = 27歳 :

こうした修行の後、自信を持つようになって布教活動に転じ、奥羽地方に赴いたが、

承平天慶乱始 935 = 32歳 : 平将門の乱が起ると

空也念仏始・ 938 = 35歳 : *平安京に還り、間髪いれず"南無阿弥陀仏"と唱えることを説き続けて、人々の共感を得、

平将門新皇・ 939 = 36歳 : 坐禅練行し、文殊の化身かと思われる。

やがて官にも認められ、東市の凶門に卒塔婆を建て、"一たびも"の歌を掲げ、さらに東市に市堂を建てて阿弥陀仏を祀り、そこを拠点に活動。市聖と呼ばれ、掘った井戸は阿弥陀井と名付けられるようになる。

承平天慶乱終 941 = 38歳 :

・・・・・・ 944 = 41歳 : 知識を勧進して阿弥陀浄土変等を図給供養。

この間、空晴僧都に法文を尋ね、興福寺浄名院に止住などし、神泉苑の北門外で病女を養育、

京群盗横行・ 948 = 45歳 : *ついに、天台座主延昌に推されて叡山で得度、光勝の名を与えられるも、空也を名乗り続け、拠点を東山の地に移し、清水寺・興福寺とその外護者藤原氏の支援も得て、活動、

・・・・・・ 950 = 47歳 : 京都に疫病が流行すると、仏の教を貴賤上下の人々に開示すべく、金字大般若経600巻の書写をする大願を発して勧進を始め、仏像造立にも着手、

・・・・・・ 951 = 48歳 : おそらく後の康尚・定朝につながる工房で制作された1丈の十一面観音像、6尺の梵天・帝釈天、および四天王の像が完成し、供養。

この間、伊予松山浄土寺止住したり、長谷寺に参詣し、

呉越国返書・ 957 = 54歳 :

大和勝部寺に止宿した際、水晶の軸を掘り出す。

雲林院に止住、

・・・・・・ 962 = 59歳 : この頃、千観内供に会い、'捨ててこそ'という。

・・・・・・ 963 = 60歳 : 蔵人所に藤原伊尹を訪ね、余慶に会い、曲がっていた自分の腕を祈祷によって直してもらったと伝えられる。南都北嶺の名僧らが清涼殿で「法華経」解釈の論争していたその日に、大般若経書写の大願が成就して、賀茂の河原で盛大な供養を行い、

・・・・・・ 964 = 61歳 : *その地に西光寺を開創。

・・・・・・ 966 = 63歳 :

延喜式施行・ 967 = 64歳 : 西光寺北門で、蛙を蛇から救う。

安和の変・ 969 = 66歳 :

・・・・・・ 970 = 67歳 : 藤原師氏葬送の際、閻魔王への牒状を書く。

空也没・・・ 972 = 69歳 : この寺で、没した。